

誇れる郷土へ 皆さんと共に

—先人の思いを未来へ—

世界の中の呉、日本の中の呉は、どうあるべきか、子孫に誇れる、50年後、100年後を見据えた世界遺産都市づくりが必要です。

中長期的には、「日本一の海事・世界遺産都市」を構築すると共に瀬戸内の自然環境や歴史文化遺産を生かした内外に誇れる世界遺産都市の実現をめざします。

短期的には、優先課題や問題点の解決をはかり、行財政改革を進めると共に、誰もが住みたい生活したいと思う、明るく夢のある世界遺産都市の基盤づくりを、市民と価値観を共有することにより進めることにより、新たな呉の創生を図り、呉市を観光立市として再生させていきます。

呉市の将来像：日本一の海事・世界遺産都市

□美しい自然環境と歴史文化遺産を大切に作る世界遺産都市づくり

- 「海事都市くれ」、「瀬戸内の歴史的な町並み」、「朝鮮通信使関連史跡」など多面的なユネスコの世界遺産登録の可能性の検討。

海事都市くれ

構成資産の例示①旧呉鎮守府司令長官官舎

構成資産の例示②海上自衛隊呉地方総監部第一庁舎

構成資産の例示③海上自衛隊第一術科学学校・幹部候補生学校

構成資産の例示④赤レンガ建造物群

- ① 江田島市との連携が必要。
- ② 文化財への指定など文化財保護法での保護が必要。

瀬戸内の歴史的な町並み

構成資産の例示①御手洗町並み保存地区

(平成 6 年国選定重要伝統的建造物群保存地区)

構成資産の例示②竹原町並み保存地区

(昭和 57 年国選定重要伝統的建造物群保存地区)

構成資産の例示③御手洗

構成資産の例示④鞆の浦

構成資産の例示⑤宮島

朝鮮通信使関連史跡

朝鮮通信使遺跡 (平成 6 年／平成 19 年国指定史跡)

鞆福禅寺境内 <福山市鞆町>

牛窓本蓮寺境内 <瀬戸内市牛窓町>

興津清見寺 (おきつせいけんじ) 境内 <静岡市清水区>

構成資産の例示①福島雁木 (ふくしまがんぎ)

構成資産の例示②三ノ瀬朝鮮通信使宿館 (昭和 15 年広島県指定史跡)

構成資産の例示③三ノ瀬御本陣跡

○下蒲刈の「朝鮮通信使」にかかわる記録などユネスコの世界記憶遺産への登録の可能性の検討。

朝鮮通信使関連資料

日韓で、「対馬宗家関係資料」(平成 20 年国の重要文化財(歴史資料の部)に指定 慶應義塾図書館所蔵)などと共に 2017 年に共同登録の予定。

構成資料候補 朝鮮人来朝覚備前御馳走船行烈図

(呉市指定有形文化財(美術工芸品))

国の重要文化財 → 国宝へと文化財としての格上げをしていくことが必要であり重要。

○宮島の「管絃祭」の阿賀のお漕船などや朝鮮通信使の「行列」などのユネスコの世界無形文化遺産への登録の可能性の検討。

宮島の管絃祭（旧暦6月17日）

まずは、国の重要無形民俗文化財への指定が必要。

朝鮮通信使行列

朝鮮通信使祭り及び朝鮮通信使行列再現行事

○鹿島や大長などの里山と里海などの国連食糧農業機関（FAO）の世界農業遺産への登録の可能性の検討。

候補地①鹿島の段々畑

候補地②大長と蒲刈のみかんやレモン畑

◎上記を検討していくなかで、文化庁による日本遺産への登録の可能性の検討。

地域の歴史的魅力や特色を通じてわが国の文化・伝統を語るストーリー

<日本遺産の要件>

日本遺産として認定するストーリーは、次の3点を踏まえた内容であること。

- ① 歴史的経緯や、地域の風土に根ざし世代を超えて受け継がれている伝承、風習等を踏まえたストーリーであること。
- ② ストーリーの中核には、地域の魅力として発信する明確なテーマを設定の上、建造物や遺跡・名勝地、祭りなど、地域に根ざして継承・保存がなされている文化財にまつわるものが据えられていること。
- ③ 単に地域の歴史や文化財の価値を解説するだけのものになっていないこと。

日本遺産として認定するストーリーには次の2種類がある。

- 単一の市町村内でストーリーが完結する「地域型」
歴史文化基本構想、または、歴史的風致維持向上計画の策定が必要。

□複数の市町村にまたがってストーリーが展開
「シリアル型（ネットワーク型）」

例示① 旧軍港四市（呉市、舞鶴市、佐世保市、横須賀市）

例示② 瀬戸内の歴史的な町並み（呉市、竹原市、福山市など）

また、ストーリーを語る上で不可欠な文化財群には、地域に受け継がれている有形・無形のあらゆる文化財を対象とすることができ、地方指定や未指定の文化財も含めることができますが、国指定・選定文化財を必ず一つは含める必要がある。

□先進的、先導的な世界遺産都市づくり

- 市民が安心・安全に暮らせるための環境整備。
- 先端産業の誘致など呉の産業力を強化。
- エネルギー、医療、福祉、教育など社会問題解決型の取組み。
- 健康長寿社会から創造される成長産業の創成。

□人間が集う魅力的な世界遺産都市づくり

- 住みやすい生活しやすい都市づくりを進め、周辺都市からの人口移動を図ることによる定住人口の増加。
- 江田島市、熊野町、坂町との合併を協議し定住人口の増加。
- 東京や大阪に流出したUターン者、呉を愛するIターン者など定住人口の増加。
- 国内外からの観光客など交流人口の増加。

□呉の潜在力を活かした世界遺産都市づくり

- 呉出身の各界人材の呉のまちづくりへの参画。
- 帰省者が気軽に立ち寄り交流できる「ふるさと広場」や「ふるさと交流館」、知恵や技術を活かせる「ふるさとプラットホーム」などの仕組みの創成。
- 女性が輝く呉への取組み。
- 呉の地域資源の見直しと利活用。
野呂山、灰ヶ峰、休山などの整備。

□住みやすい生活しやすい世界遺産都市づくり

- 一所懸命努力している人が報われる地域風土の醸成。
- 呉市に住むのにかかる諸コストの改善。
- 病院や買物に行きにくい音戸地区、倉橋地区などの島しょ部や昭和地区、郷原地区などの内陸部へのコミュニティー・バスの導入。
- 安心して子供を産める、子供を育てられる環境整備。
- JR呉線の快速化、沿線の駅舎とその周辺環境の充実。
- インターネットのフリー・スポットの充実など高度情報化の促進。

□子孫に負の遺産を残さない世界遺産都市づくり

- 行財政改革を更に進める。

□国際的な世界遺産都市づくり

- 姉妹都市との提携など国際化の進展。
- 世界に通用する人材の育成、教育の充実。
- 呉市生涯学習センターの設置。
- ユネスコの「創造都市」の認定。
- ユネスコ・スクールの指定促進。
- 世界に勝てる若者の育成。

<添付資料>

- ① 世界遺産、世界無形文化遺産、世界記憶遺産の違い
- ② 日本の世界遺産と世界遺産暫定リスト記載物件

企画者 古田 陽久

<本稿作成記録>

- 2013年7月 作成
2016年2月 第1次改訂